

令和 6 年 6 月 8 日現在

機関番号：24405
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2020～2023
課題番号：20K00533
研究課題名(和文) コリアン・ディアスポラと識字・文学・翻訳 - 冷戦期日本、米国、ソ連の比較文化研究

研究課題名(英文) Literacy, Literature, and Translation in the Korean Diaspora: A Comparative Cross-Cultural Study of Japan, US, and USSR during the Cold War Era

研究代表者
宋 恵媛 (SONG, HYEWON)
大阪公立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：60791267
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本、米国、旧ソ連(ロシア・中央アジア)という、三地域のコリアン・ディアスポラの比較文化・文学研究であった。1940-50年代のディアスポラ文化の生成過程を比較しながら解明した。韓、日、中央アジア、ドイツにおいて、資料調査と聞き取り調査を行いつつ、識字、教育、文芸、翻訳、検閲、ジェンダーの側面から検討し、その成果を積極的にアウトプットした。コロナの感染拡大による渡航制限が長く続いたため、当初の計画よりも海外での調査は思うようにいかなかったとはいえ、代わりに資料調査や整理、出版などを集中的に行うことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

韓、日、中央アジア、ドイツといったコリアン・ディアスポラの居住する地域で資料調査と聞き取り調査を行いつつ、それらを識字、教育、文芸、翻訳、検閲、ジェンダーの側面から比較検討した。また、日本国内外での学会発表や資料集や作品集の出版、論文発表を数多く行うことで、各地域のコリアン・ディアスポラ研究のみならず、日本近現代史や文学、そして冷戦研究の深化にも貢献しえたと考える。

研究成果の概要(英文)：This research was a comparative cultural and literary study of the Korean diaspora in three regions - Japan, the USA and the former Soviet Union (Russia and Central Asia) - and elucidated the process of diaspora culture formation in the 1940s and 1950s through comparison. The research examined the aspects of literacy, education, literature, translation, censorship and gender in Korea, Japan, Central Asia and Germany through document research and field interviews, and actively published the findings. Even though the researches abroad did not go as smoothly as originally planned due to the long-lasting travel restrictions caused by the spread of the Covid, I was instead able to concentrate on material research, compilation and publication.

Translated with www.DeepL.com/Translator (free version)

研究分野：在日朝鮮人文学

キーワード：日記研究 ジェンダー研究 資料集刊行 サハリン朝鮮人 コリアン・ディアスポラ研究 在日朝鮮人一世女性 作品集刊行

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

「コリアン・ディアスポラと識字・文学・翻訳-冷戦期日本、米国、ソ連の比較文化研究」と題する本研究は、日本、米国、旧ソ連(ロシア・中央アジア)の三地域のコリアン・ディアスポラの比較文化・文学研究である。日本の植民地支配、米軍やソ連軍による占領、朝鮮戦争を経験した朝鮮人による1940-50年代のディアスポラ文化の生成過程を解明する。

考察の際のキーワードは、識字、教育、文芸、翻訳、検閲、ジェンダーである。翻訳理論、ディアスポラ理論の精査と、米、ロ、韓、日、中央アジア、ドイツでの資料発掘や聞き取り調査といった実証的アプローチの二本柱で研究を進める。各地域のコリアン・ディアスポラ研究はむろん、韓国研究、朝鮮民主主義人民共和国研究、冷戦研究、翻訳研究、ディアスポラ研究の深化に貢献する研究となりうると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、冷戦初期の日、ソ、米のコリアン・ディアスポラの文化・文学を、識字、教育、文芸、翻訳、検閲という角度から比較考察することである。そのための方法として、1940、50年代に三地域で発行された朝鮮語新聞や、当事者や家族の聞き取り調査をもとに、理論的かつ実証的にその文化生成過程を解明する。コリアン・ディアスポラたちの新たな文化生成過程を識字教育を手がかりにして明らかにすることにより、ジェンダーの視点からの解明も試みる。

資本主義、社会主義という異なる体制下にあったコリアン・ディアスポラたちを、地域、社会体制横断的に比較し、論じることで、ディアスポラ文化研究、20世紀の朝鮮、日本、米国、ロシア研究に新たな視点を提示することを企図するものである。

3. 研究の方法

研究方法としては、(1)理論の構築、(2)資料、聞き取り調査、(3)比較分析、(4)資料公開という、4つの柱を立てた。研究期間は4年であるが、一年ごとにそれぞれについて進めていく方式を取った。

2020年度には、翻訳理論研究、言語問題の分析を行う。(1)理論：翻訳研究に関する選考文献を精査する。(2)調査：(米)国立公文書館(NARA)とプランゲ文庫で、朝鮮人米軍通訳に関する補完的調査を行う。韓国の安山、仁川、金浦等で、サハリン出身の研究者らと面談。(3)比較分析：日・米の元米軍通訳に関する論文を発表。ソ連軍通訳に関する調査も行う。(4)資料公開：在日朝鮮人文学資料集の編集に着手。

2021年度は、資料発掘調査とインタビュー調査に力点を置く。(1)理論：ディアスポラ理論を深め、コリアン・ディアスポラ研究への適用、応用の方途を検討。(2)調査：米国にて20世紀初頭のコリアン・アメリカン、日系米人関連の資料渉猟。ロシア・ハバロフスクにてサハリン朝鮮人の方々へのインタビュー実施。(3)比較分析：各地域における識字、学校、メディアの分析を進める。各地域で発行されたコミュニティ新聞を用い、各地域での朝鮮語識字運動、朝鮮人学校での教育実態を、女性たちの役割に着目しながら比較検討する。(4)資料公開：在日作家関連の資料集などの刊行準備。

2022年度は、新資料の発掘と聞き取りを集中的に行う。対象を中央アジアとドイツにも広げる。(1)理論：三地域のディアスポラに関する日、韓、露、英語圏の先行文献を精査。(2)調査：ハワイで移民、通訳、太平洋戦争期の語学兵、二世教育関連資料の再調査。(韓)安山、坡州等でサハリン出身者への聞き取りを継続。(カザフスタン)アルマティの新聞社『高麗日報』の調査を実施。(独)1970年代に集団渡独した元炭鉱労働者、看護師への聞き取りを行う。(3)分析：日・ソ・米の朝鮮語新聞から各地域での「文学」の位置づけ、作品傾向、南北朝鮮文学との影響関係を検証。(4)資料公開：在日作家関連の資料集などの刊行。

2023年度は、理論研究と具体的で実証的な調査を結合させ、外部に発信する。(1)理論：コリアン・ディアスポラ文化の理論化作業を行う。(2)調査：(米)公文書館のソ連朝鮮人関連資料の調査。(ロ)モスクワで朝鮮人関連資料を渉猟。(韓)安山等でサハリン出身者の聞き取りの継続。(3)分析：三地域の米、ソ当局による検閲状況を分析。本研究の総まとめとして、コリアン・ディアスポラ間の文化面での影響関係を分析し、成果を発表する。(4)資料公開：在日作家関連の資料集などの刊行。

4. 研究成果

本研究は、日、ソ、米という3地域のコリアン・ディアスポラの比較分析を行うものであった。4年の研究期間のうち、(1)の理論の構築については概ね目標を達成することができた。しかしながら、予定をしていた米国およびロシアでの資料調査、聞き取り調査がコロナ感染拡大の影響で全くできなかったため、(2)の資料、聞き取り調査の計画は大幅に変更せざるを得なかった。ただし、後半には中央アジア(高麗人の文化に関する調査)やドイツ(ベルリンでの移住韓国女性看護師の調査)での調査を実施し、人脈や資料調査の面で今後の研究につなげることができた。(3)と(4)に関しては、論文執筆、研究発表、資料集発刊において当初の計画以上に進めることができた。

以下に、本研究課題の主な成果を示す。

【著書】

- ・『密航のち洗濯 ときどき作家』(共著) 柏書房 2024年1月
- ・Transnationalism and Migration in Global Korea: History, Politics, and Sociology, 1910 to the Present (担当:共著, 範囲:第七章 サハリンと日本の戦後コリアン・ディアスポラ:メディア・教育・芸術の比較分析), Routledge, November 2023.
- ・『越境の在日朝鮮人作家 尹紫遠の日記が伝えること 国籍なき日々の記録から難民の時代の生をたどって』琥珀書房、2022年
- ・『尹紫遠全集(電子版)』琥珀書房、2022年
- ・『在日朝鮮人作家尹紫遠未刊行作品選集』琥珀書房、2022年
- ・『戦後日本の傷跡』臨川書店、2022年2月
- ・『続在日朝鮮人文学資料集』(共編)緑蔭書房、2020年

【論文】

- ・「「在日朝鮮人女性」を読む:在日朝鮮人一世女性を可視化するための一つの試み」(女性文学研究(韓国) 2022年9月)
- ・“The Literature of Migrant Women in the Postcolonial Period: On the Writings of”
- ・「在日朝鮮人女性はどのように描かれてきたか:1970年代以前の男性作家の女性表象」『コリアン・スタディーズ』(10)、2022年6月
- ・「失踪した女性はどこへ行ったのか:在日朝鮮人女性の歴史叙述のために」『今日の文芸批評』、2022年3月
- ・「歌人から小説家へー尹紫遠の“戦後文学”」『大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター年報』(18)、2021年3月
- ・「尹紫遠日記を読む:戦後日本で在日朝鮮人が書くということ」『アジア太平洋レビュー』(17)、2020年12月
- ・「米軍通訳たちの文学史:二つの帝国と近現代「朝鮮文学」」『東方學志』192、2020年9月
- ・〔翻訳〕ユリア・ディン「ソ連崩壊後のサハリン朝鮮人」(共訳:天野尚樹)『コリアンスタディーズ』(11)、2023年7月
- ・〔翻訳〕ユリア・ディン「21世紀のサハリン朝鮮人:適応過程の完了」(共訳:天野尚樹)『山形大学歴史・地理・人類学論集』(23)、2022年3月

【口頭発表】

- ・「エゴドキュメントの可能性:在日朝鮮人一世女性の場合」(近代東アジアにおけるエゴ・ドキュメントの学際的・国際的研究 第4回研究会)2023年2月27日
- ・「榛葉英治日記と尹紫遠日記:マイナー作家と文学の「権威」をめぐる」(『職業作家の生活と出版環境』シンポジウム)2022年10月29日
- ・「越境の在日朝鮮人作家 尹紫遠の日記:密航・無国籍・難民」(山形大学「移民社会における多文化共生研究拠点」プロジェクト研究会)2022年9月4日
- ・Hearing the Voiceless Voices: Literary Historiography of Post-war Zainichi Korean literature (ICLA - Congress 2022 in Tbilisi) 2022年7月26日〔トビリシ〕
- ・「1940,50年代の朝鮮人米軍通訳-帝国・移動・マルチリンガリズム」青丘文庫研究会朝鮮近現代史研究会)2022年6月12日
- ・「「在日朝鮮人女性」を読む:在日朝鮮人一世女性たちを可視化するための一つの試み」(韓国女性文学学会2022年上半期学術会議)2022年4月23日
- ・“A Historiography of Zainichi Korean Literature: Beyond Sexism, Colonialism and the Cold War” (Empires in Motion Conference at UH Manoa) 2022年3月22日〔ハワイ大学〕
- ・“Writing Literary History Across Languages: Moving Beyond the Challenges of Zainichi Studies in Korean/Japanese” 2021年12月4日〔ユタ大学〕
- ・「尹紫遠日記と戦後日本「密航」朝鮮人の生活と文学」(近代日本の日記文化と自己表象 第29回研究会)2021年7月24日
- ・「初期在日朝鮮人文学における女性表象:1945-70年頃の小説を中心に」(国際高麗学会日本支部 第25回学術大会)2021年5月30日
- ・「移動者たちの「在日朝鮮人文学」:帰還、「密航」、大村収容所、「帰国」、ベトナム」(日教研

共同研究会「戦後日本の傷跡」第5回研究会)2021年4月11日

・「在日朝鮮人文学史とその源流としての「女性文学」」(国際高麗学会日本支部 第98回人文社会研究部会)2021年1月31日

・“Post-War Korean Diasporas in Sakhalin and Japan: A Comparative Analysis of Media, Education and Arts”(第13回奎章閣韓国学国際シンポジウム)2020年11月6日〔ソウル大学奎章閣韓国学研究院〕

以上のように、冷戦初期の日、ソ、米のコリアン・ディアスポラの文化・文学を、識字、教育、文芸、翻訳、検閲という角度から比較考察する、という本研究の目的は、概ね達成することができた。

コロナとロシアの戦争勃発により、海外での調査は計画通りには進まなかったが、そのかわりに日本国内での新資料の発掘やその整理、出版作業、その他、研究課題に関連する論文の執筆を集中的に行うことができ、発表、発信に関しては当初の計画よりも大幅に進んだ。後続研究の基礎となるような資料集、作品集の発刊も実現した。

また、論文発表や口頭発表は日本、韓国、米国、ジョージアなど多様な地域で行ったため、幅広い読者、研究者に対して本研究の意義を問うことができたといえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 宋恵媛 天野尚樹（翻訳）	4. 巻 11
2. 論文標題 ユリア・ディン著「ソ連崩壊後のサハリン朝鮮人」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 コリアンスタディーズ	6. 最初と最後の頁 45-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宋恵媛	4. 巻 10
2. 論文標題 在日朝鮮人女性はどのように描かれてきたか：1970年代以前の男性作家の女性表象	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 コリアン・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 4-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宋恵媛	4. 巻 13
2. 論文標題 The Literature of Migrant Women in the Postcolonial Period: On the Writings of First-Generation Korean Women in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Urban Scope	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 宋恵媛	4. 巻 56
2. 論文標題 「在日朝鮮人女性」を読む：在日朝鮮人一世女性を可視化するための一つの試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 女性文学研究	6. 最初と最後の頁 82 - 107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 宋 恵媛	4. 巻 124
2. 論文標題 失踪した女性はどこへ行ったのか：在日朝鮮人女性の歴史叙述のために（梁スンジュ訳）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 今日の文芸批評（韓国）	6. 最初と最後の頁 56-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 宋 恵媛	4. 巻 17
2. 論文標題 尹紫遠日記を読む：戦後日本で在日朝鮮人が書くということ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア太平洋レビュー	6. 最初と最後の頁 49-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宋 恵媛	4. 巻 192
2. 論文標題 米軍通訳たちの文学史：二つの帝国と近現代「朝鮮文学」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東方學志	6. 最初と最後の頁 25-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 宋 恵媛	4. 巻 18
2. 論文標題 歌人から小説家へー尹紫遠の“戦後文学”	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター年報	6. 最初と最後の頁 10-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 宋恵媛
2. 発表標題 「在日朝鮮人女性」を読む：在日朝鮮人一世女性を可視化するための一つの試み
3. 学会等名 韓国女性文学学会2022年上半期学術会議 「アジアンフェミニズム：嫌悪の政治と証拠主義を超えて」（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宋恵媛
2. 発表標題 1940,50年代の朝鮮人米軍通訳 - 帝国・移動・マルチリンガリズム
3. 学会等名 青丘文庫研究会・朝鮮近現代史研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宋恵媛
2. 発表標題 Hearing the Voiceless Voices: Literary Historiography of Post-war Zainichi Korean literature
3. 学会等名 ICLA Congress 2022 in Tbilisi (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宋恵媛
2. 発表標題 越境の在日朝鮮人作家 尹紫遠の日記：密航・無国籍・難民
3. 学会等名 山形大学「移民社会における多文化共生研究拠点」プロジェクト研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宋恵媛
2. 発表標題 榛葉英治日記と尹紫遠日記：マイナー作家と文学の「権威」をめぐる
3. 学会等名 『職業作家の生活と出版環境』シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宋恵媛
2. 発表標題 エゴドキュメントの可能性：在日朝鮮人一世女性の場合
3. 学会等名 近代東アジアにおける エゴ・ドキュメントの学際的・国際的研究 第4回研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宋恵媛
2. 発表標題 A Historiography of Zainichi Korean Literature: Beyond Sexism, Colonialism and the Cold War
3. 学会等名 Empires in Motion Conference at UH Manoa (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宋恵媛
2. 発表標題 Writing Literary History Across Languages: Moving Beyond the Challenges of Zainichi Studies in Korean/Japanese
3. 学会等名 CULTURES OF CROSSING: Transpacific and Inter-Asian Diaspora -An International Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宋恵媛
2. 発表標題 在日朝鮮人女性と出会うために エゴ・ドキュメントと文学のあいだを読む
3. 学会等名 ジェンダー×植民地主義 交差点としての「ヒロシマ」連続講座（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宋恵媛
2. 発表標題 尹紫遠日記と戦後日本：「密航」朝鮮人の生活と文学
3. 学会等名 近代日本の日記文化と自己表象 第29回研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宋恵媛
2. 発表標題 初期在日朝鮮人文学における女性表象 1945-70年頃の小説を中心に
3. 学会等名 国際高麗学会日本支部 第25回学術大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宋恵媛
2. 発表標題 移動者たちの「在日朝鮮人文学」：帰還、「密航」、大村収容所、「帰国」、ベトナム
3. 学会等名 日文研共同研究会「戦後日本の傷跡」第5回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宋 恵媛
2. 発表標題 在日朝鮮人文学史とその源流としての「女性文学」
3. 学会等名 国際高麗学会日本支部 第98回人文社会研究部会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宋 恵媛
2. 発表標題 Post-War Korean Diasporas in Sakhalin and Japan: A Comparative Analysis of Media, Education and Arts
3. 学会等名 第13回奎章閣韓国学国際シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 Hyewon Song	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 312
3. 書名 Transnationalism and Migration in Global Korea : History, Politics, and Sociology, 1910 to the Present	

1. 著者名 宋 恵媛、望月 優大、田川 基成	4. 発行年 2024年
2. 出版社 柏書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 密航のち洗濯 : ときどき作家	

1. 著者名 尹紫遠・宋恵媛	4. 発行年 2022年
2. 出版社 琥珀書房	5. 総ページ数 310
3. 書名 越境の在日朝鮮人作家 尹紫遠の日記が伝えること 国籍なき日々の記録から難民の時代の生をたどって (宋恵媛翻刻・解説)	

1. 著者名 宋恵媛編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 琥珀書房	5. 総ページ数 145
3. 書名 在日朝鮮人作家 尹紫遠未刊行作品選集(宋恵媛編・解説)	

1. 著者名 宋恵媛編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 琥珀書房	5. 総ページ数 200
3. 書名 月陰山復刻版(宋恵媛編・解説)	

1. 著者名 宋恵媛	4. 発行年 2022年
2. 出版社 琥珀書房	5. 総ページ数 994
3. 書名 尹紫遠全集 電子版 (宋恵媛編・解説)	

1. 著者名 坪井 秀人	4. 発行年 2022年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 376
3. 書名 戦後日本の傷跡	

1. 著者名 宋 恵媛、宮本正明	4. 発行年 2020年
2. 出版社 緑蔭書房	5. 総ページ数 2003
3. 書名 続在日朝鮮人文学資料集：一九四六-六〇	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------